

福井いいところ★ いっぺん住んでみねの

めざせ！ターン者400人！

あらかじめ、
幸せだったらいいな。

幸せ度
いちばん
福井県

●チーム● ほぼB

福井県 若者・定住支援課

福井県 地域農業課

福井県 人事委員会事務局

福井市 介護保険課

山寄 洋一

馬田 英典

山田 保菜美

畑 尚宏

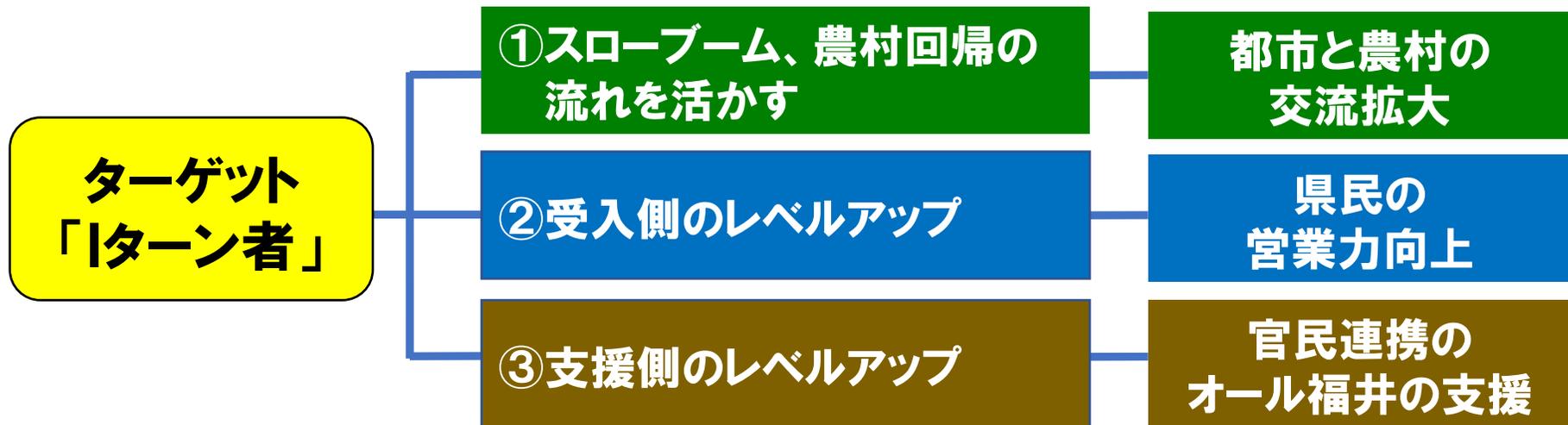
1	要約	3ページ
2	現状	4ページ
3	政策提言	10ページ
4	施策効果	18ページ
5	おわりに	19ページ

要 約

【現 状】

- ①人口の東京一極集中が進行
- ②働き方改革やスローブーム、農村回帰が浸透
- ③首都圏からのIターン者が増加

【課題分析・施策と事業】



【目標値】

- ① 県内へのIターン者数 H32:400名 (H28:206名)
- ② 経済効果 10億円

Ⅰ ターン政策の今

全国の状況

- ①都市部の雇用拡大により、東京一極集中 毎年10万人転入超過
- ②各自治体がターン政策も強化するが、流れを変えれない
- ③都市部・若者を中心に働き方改革、スローブーム、農村回帰が浸透

福井の状況

※1 福井県調査

※2 総務省「平成28年度における移住相談に関する調査結果」

※3 日本総合研究所編集「全47都道府県幸福度ランキング2016年度版」

- ①全国からターン者が増加 126人→191人→206人(H26→H28)^{※1}
- ②福井への移住の相談件数が増加 6,271件→7,148件(H27→H28)^{※2}
- ③福井の良さ(生活、子育て環境)は日本一 幸福度ランキング 全国1位^{※3}

福井のこれから

だけど、知られていない・・・

北陸新幹線の延伸、中縦道の全線開通により、都市圏(東京、名古屋、大阪)との交流が拡大。都市圏居住者に福井の良さを伝え、福井での体験やターン者を増やすチャンス

現状分析

SWOT分析

機会(O)	脅威(T)
<ul style="list-style-type: none">① スローライフブーム② 若者の農村回帰③ 新幹線開業	<ul style="list-style-type: none">① 地域間競争の激化② 大企業の雇用拡大③ 売り手市場
強み(S)	弱み(W)
<ul style="list-style-type: none">① 生活・子育て環境が良い② 自然③ 家賃・物価が安い	<ul style="list-style-type: none">① 若者の流出② PR不足③ 行政・民間の連携不足

方向性

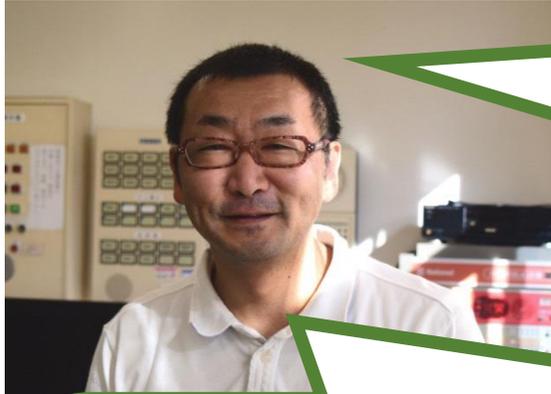
①スローブーム、
農村回帰の
流れを活かす

②受入側の
レベルアップ

③支援側の
レベルアップ

現状分析① スローブーム、農村回帰の流れを活かす

○都市農村交流員 萩田英爾さんへのインタビューから



- (1)福井県のグリーンツーリズムは、**環境保全・観光振興・地域振興を一体的に推進**することが目的
- (2)実施団体は、**ふくいエコ・グリーンツーリズム・ネットワーク**に加盟し、**定期的に情報交換**を行っており、**連携した活動の契機**となっている。

- (4)九州・四国の中山間地に比べて**交通・農地等の点で恵まれている**が、住民の**地域衰退への危機感が薄い**ために、**アドバンテージを活かした地域資源の利活用の動きが出にくい**。
- (5)持続性のあるグリーンツーリズムの確立のためには、**補助金に頼らない収益力のある自立した運営**を行うことが不可欠
- (6)グリーンツーリズムの成果は集客数ではなく、**継続的に地域を訪れて、経済的・社会的に地域振興に寄与してくれる優良顧客の獲得が鍵**となる。

分析

交流人口の拡大に向けた仕組みづくりと地域全体を巻き込んだ魅力発信が求められている。

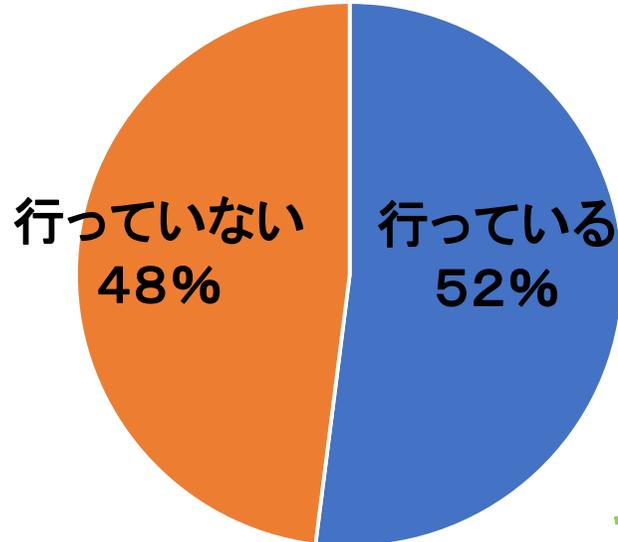
現状分析 ②-A 受入側のレベルアップ (県内学生の現状)

アンケート実施

【対象】 福井県内の小中高学校教員120人

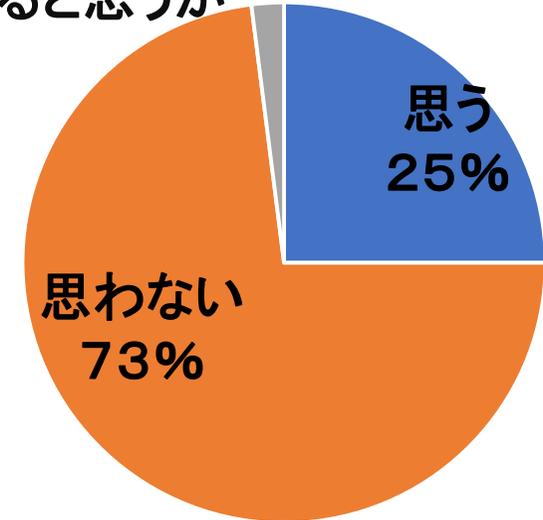
(教育総合研究所での研修受講者)

Q1 現在ふるさと教育を行っているか



■ 行っている ■ 行っていない

Q2 子供達は福井県のことを外に説明できると思うか



■ 思う ■ 思わない ■ わからない

- ・稲刈り体験
- ・偉人調べ
- ・特産物調べ
- ・地元企業見学
- ・職場体験
- etc.

分析

実施されているふるさと教育の内容を見ると、小中高につながりがない単発的なものが多い。

→小中高にわたり継続したふるさと教育を実施することで、着実にふるさと愛が育つのでは？

データ

福井県へ移住した女性へのアンケート結果 (18人)

Q 福井県に移住して困ったことは？

- A ① 親類・友人がいなくて寂しい … 78%
② 地域に溶け込めない … 45%

(福井県調査より)

分析

移住者と地域住民がうまく交流できていない



移住者が地域にうまく溶け込めるよう、**地域住民**
が移住者を受け入れられる体制づくりが必要

現状分析③ 支援側のレベルアップ

○福井県経営者協会専務理事 峠岡伸行さんへのインタビューから



(1) 空き家の活用について

(持ち主)

信頼できる借り手が分からず、心配で貸せない。

(企業)

社宅として活用したいが、信頼ある物件が借りれるか分からない。

(2) Iターン政策としての空き家の活用および官民連携について

- ① 子育て世代のIターン者にとって、大きな家はニーズが高い。空き家を活用し、福井では安い住宅が手に入ることを売りにすれば、都市圏向けに高いPR効果がある。
- ② Iターン者の採用に取り組む企業は、住宅支援は採用活動のPR材料としたい。県内企業からは、県にはもっとUターン政策をPRしてほしいとの意見がある。

分析

- ① 行政が仲介することで、空き家の活用を促進
- ② 官民連携で、社宅としての空き家活用をPR

課題に対する政策提言一覧

対策①

スローブーム等の流れを活かす

都市と農村の
交流拡大

政策提言①

ふくい農業ビジネスセンターを
都市農村交流のハブ化

対策②

受入側のレベルアップ

県民の
営業力向上

政策提言②

「ふくいをアピールし隊」の育成

対策③

支援側のレベルアップ

官民連携の
オール福井の支援

政策提言③

官民オール福井 空き家社宅化
計画

政策提言① ふくい農業ビジネスセンターを都市農村交流のハブ化

目的

福井県の農村地域資源を利活用した都市農村交流を通じ、都市在住の若者世代の福井県への移住・定住を促進する。

数値目標

都市交流による売上高 41億円(H28)→51億円(H33)

方策①

ふくい農業ビジネスセンターをグリーンツーリズムのハブ拠点化

方策②

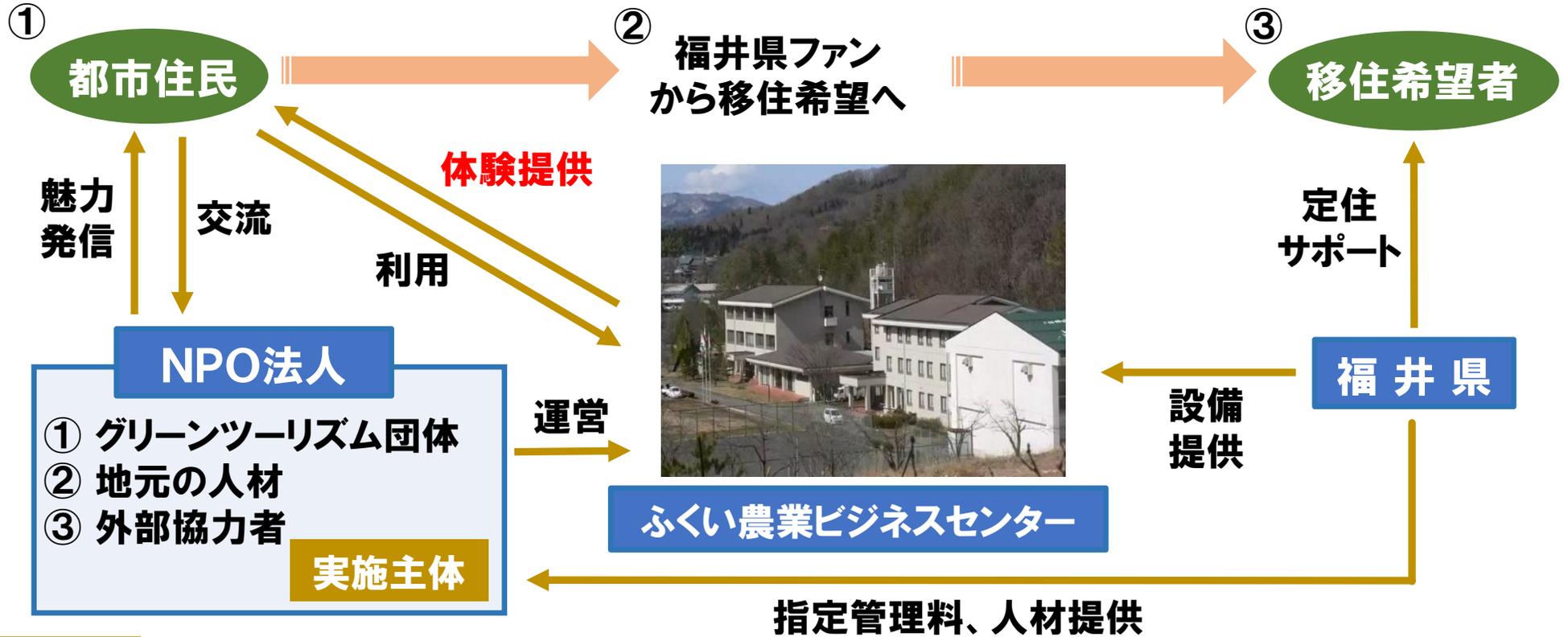
ふくい農業ビジネスセンターの定住促進拠点化

方策①-1 ふくい農業ビジネスセンターをGTのハブ拠点化

内容

グリーンツーリズムの窓口を一本化

企画運営に対する行政の関与を最小化



効果

全県対応型の幅広い体験メニューの提供

ニーズに応じた企画力・魅力の向上

収益力向上に向けた魅力ある企画提供

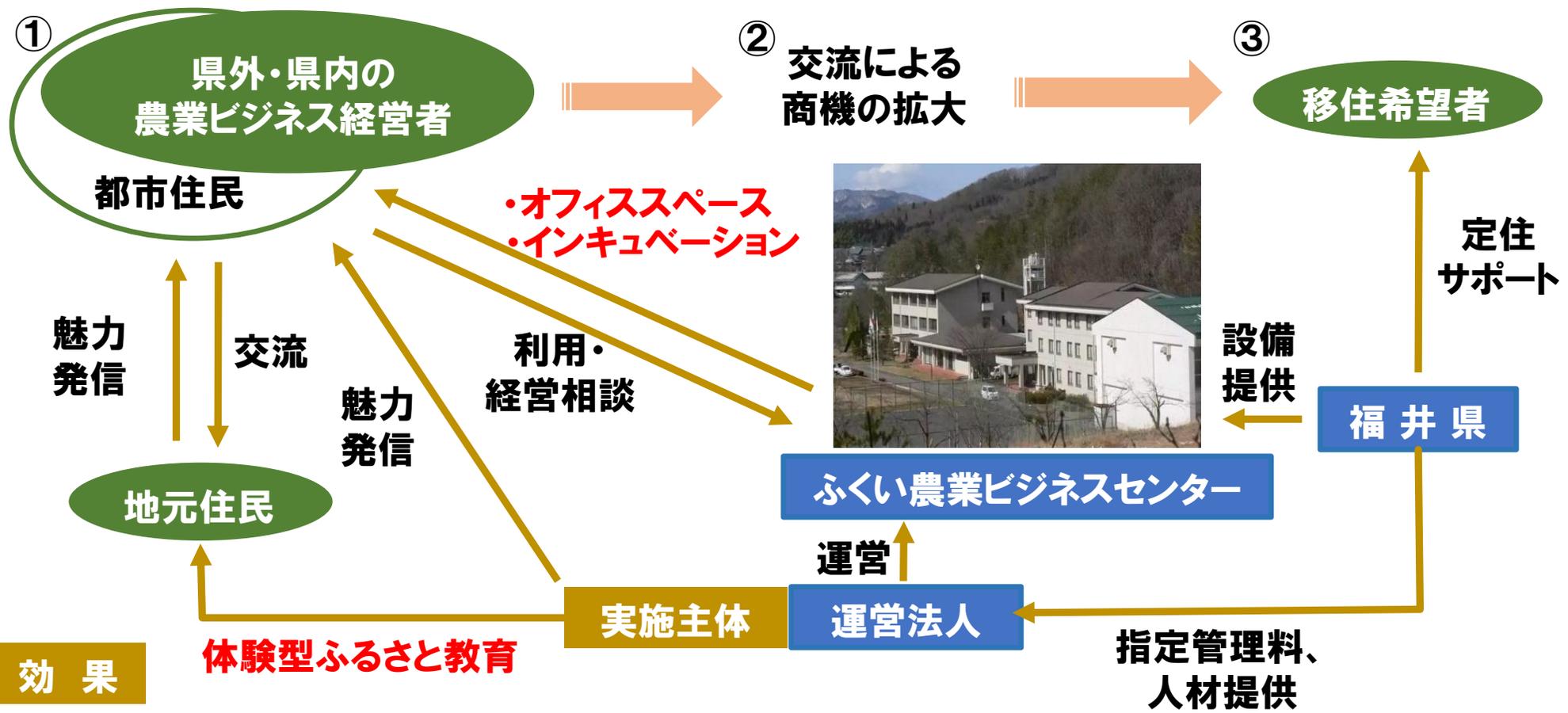
持続的な都市農村交流

方策①-2 ふくい農業ビジネスセンターの定住促進拠点化

内容

農業ビジネス経営者の交流拠点化

体験型ふるさと教育の実践



効果

体験型ふるさと教育

地域資源利活用のアイデア創出

商機の拡大による地域経済振興

県民が地域資源を再認識

福井県の良さを発信できる県民を育成

方策②-A 「ふくいをアピールし隊」の育成(県内学生向け)

対象 県内に住む小中高生

内容 成長段階に合わせた効果的な「**ふくい満開教育**」を実施


小学生～つぼみ～

ステップ1:自分の住むまちを知る

- ①自分の住むまちについての教科書作成
- ②地元おじいちゃん、おばあちゃんとの交流


中学生～開花～

ステップ2:福井県全体を知る

- ①他市町についての教科書を作成
- ②他市町の方にわが町自慢をしてもらう


高校生～満開～

ステップ3:福井の優位性を知る

- ①具体的事例による金銭面、子育て環境で福井が優れていることを知る
- ②|ターン者に福井県自慢をもらう

効果

継続的な教育により**福井の良さを自覚し、外にPRできる県民へ**

方策②-B 「ふくいをアピールし隊」の育成(県民向け)

対象

移住者と同じ地域に暮らす県民

内容

- ①移住者・地元住民間のルールづくり
- ②生活スタイルを示すPR動画づくり
- ③移住者と地元住民が対話を行う座談会の開催
- ④先住者が新規移住希望者へ体験談を伝える

効果

地域のルールをともにつくり、動画や座談会にて暮らし方を示してあげることで地域に溶け込みやすく、人脈も生まれる→**新たな福井の魅力として移住希望者に拡大**

方策②-C 「ふくいをアピールし隊」の結成(行政向け)

行政職員も
先頭に立ち
盛り上げます！



県・市町村が
連携し
徹底サポート！

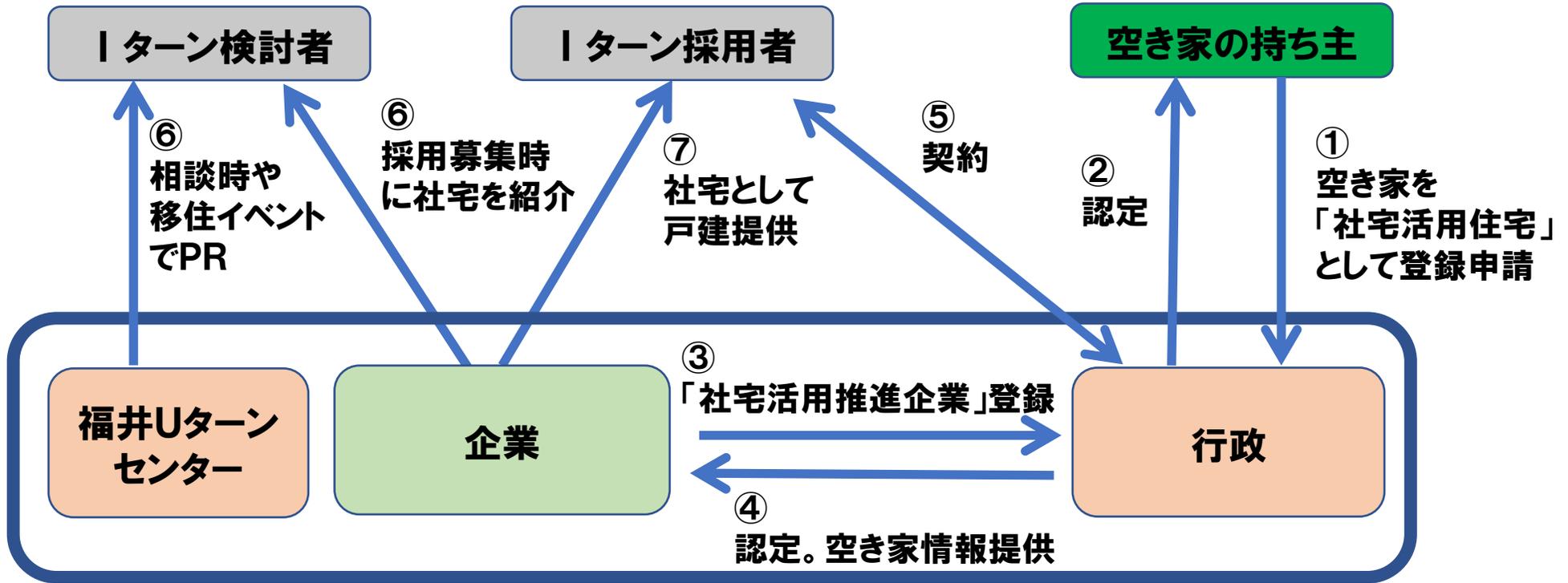
効果

県・市町村の関係各課を中心に「**ふくいをアピールし隊**」を
結成 → **県・市町村が一丸となり県民の先導・サポート**

政策提言③ 官民連携オール福井 空き家社宅化計画

内容

実施主体（官民連携の協議会を設置）



効果

- 行政が仲介することで、**空き家の利活用が加速**
- 官民が連携してPRLし、**都市圏の多くのIターン検討者に移住のメリットを周知**
- **子育て世代のIターン者の一戸建の入居が促進。移住障壁が減り、Iターン者が増加**

3施策により期待される効果

都市部との交流の拡大(H28→H33)

①福井県への|ターン者数増

200人/年 目標増加率200%

(H28 206人/年 → H33 400人/年)

②交流によるグリーンツーリズムの売上高増

10億円/年 目標増加率120%

(H28 41億円/年 → H33 51億円/年)

おわりに

研修期間中、熱意あふれる御指導を賜りました田中先生に心より御礼申し上げます。

この研修の機会を与えていただいた自治研修所所長および各所属長に感謝申し上げます。

また、インタビューにご協力いただいた都市農村交流員の荻田さん、福井県経営者協会峠岡専務理事、アンケートにご協力いただいた自治研修所の皆様には多大なご尽力を賜り、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

行政経営戦略研修「ほぼB」一同